



一般会計・特別会計・企業会計、いずれも黒字。財政健全化の指標も改善し、市債発行残高(借金)も削減、財政健全化は進んでいます。しかし…

固定資産税の増加が主たる要因となり、市税の収入は増加しています。しかしこれは、日本銀行の金融緩和政策による資金が不動産投資に流れているためです。そして、いずれ不動産バブルは終わります。福岡市の経済の実態は、市民の消費は伸びておらず、中小企業の景況感も相変わらず悪いままです。市税収が多少増えたとしても、今後、歳入の大幅な増加は見込めません。

超高齢社会を迎え、介護・医療の費用や扶助費は増え続け、公共施設や道路下水道の維持管理の費用もかかります。歳入が増えないため、政策的に自由に使える予算は限られています。今まで以上に、どこに優先的に税金を使うのかが問われています。

〈切り捨てられる 市民サービス〉

厳しい財政状況が続くな、行財政改革として113項目の具体的削減目標を立て、市民サービスの切り捨てを行ってきました。一方、市民負担で生み出した資金を、企業誘致や人工島の土地処分、天神ビッグバンや中央埠頭の再開発に優先的に投資しています。その結果、大企業は利益を得ていますが市民は恩恵を受けていません。安心安全のための地道な取り組みに力を入れ、介護、子育て、教育、障がい者支援、若者支援など、市民の暮らしに優先的に投資すべきです。また、大企業優先ではなく、地場中小企業の支援にもっと力を注ぐべきです。人を大事に育てることが、このまちを発展させます。

福祉の増進を図るという地方自治の本旨に則って、税金を使うべきと考えます。

9月議会 主な議案への賛否と主張

一緑とネットは23議案中、
20議案に賛成、3議案に反対

マイナンバーシステム改修の補正予算（議案197号）

[賛否] 反対 ▶ [結果] 可決

希望者に対して住民票等に旧姓を表記し、諸手続きを簡素化するというシステム改修の補正予算です。しかし本質的な解決は、夫婦別姓の選択ができる法改正をすることだと考えます。システムの改修は小手先の対策にすぎません。

人工島接続道路（都市高速道路延伸）の補正予算（議案197号）

[賛否] 反対 ▶ [結果] 可決

都市高速道路から子ども病院側へ直接乗り入れる道路を建設する計画ですが、私たちはこの建設自体に最初から反対していました。この建設による時短効果はわずか7分。292億円もの税金を投じる必要はありません。

立地交付金の補正予算（議案197号・議案199号）

[賛否] 反対 ▶ [結果] 可決

費用対効果が極めて低く、適切な税金の使い道と言えません。これまで立地交付金274億円のうち229億円が人工島の土地処分のために使われています。しかし交付事業所からの税収は累計で20億円しかなく、交付事業所の2割強がすでに撤退、平成28年度までに9,208人の雇用が増えているものの62.5%が非正規雇用、というのが実態です。

建築関係手数料の一部改正（議案203号）

[賛否] 賛成 ▶ [結果] 可決

住宅確保の配慮が必要な方に対して賃貸住宅の提供を促進していくため、10月25日から施行された「住宅セーフティネット法」に伴う条例改正でした。住宅改修費の補助や家賃の補助などを国や市から受けることができるようになります。私たちは賛成したうえで、地域包括ケアシステムと連携させること、支援メニューを充実させること、低所得世帯への住宅費の負担軽減策を充実させること、市民および賃貸住宅所有者に本施策を周知すべきことなどを提案しました。

日常のお困りごと、相談ごとはありませんか？市政や議会への提案や要望も承ります。請願の紹介議員をお探しの方もご連絡ください。「緑と市民ネットワークの会」は市民の皆さんのが声を市政に反映させていきます。

街の声を
市政へ！

市民目線で政策提案!!



一般質問 あらき龍昇 議員

【9月議会】

◆市営住宅で起こった問題 再発防止を！

ある市営団地の自治会の方から、不法にバイクを持ち込むグループが夜間に騒ぎ、注意すると脅しや嫌がらせを受けるという状況が10年間も続いているという相談を受けました。住民の方たちは住宅供給公社に対策を求めていましたが、解決できずにいました。最近ようやく解決に向かうことができましたが、市営住宅は市が管理する施設であり、改めて議会で質問することで、市にも事態の重大性を認識してもらうとともに、再発防止を求めました。



一般質問 森あや子 議員

【9月議会】

◆化学物質を扱う公共工事から健康を守る！

化学物質を扱う公共工事は細心の注意が必要であり、発注者である市は、全般的に情報共有し、リスク回避の意識を高めることが求められています。福岡市公共工事安全推進計画に化学物質の観点を盛り込むとともに、事故対応マニュアルの策定など、市民の生命と健康を守るシステム構築を急ぐべきだと提案しました。

【決算特別委員会】

◆こども総合相談センター

「えがお館」の体制強化を！

虐待防止や不登校対策のためには、児童心理司や臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどの専門職の体制強化が必要です。現状は非常勤職員が多く、人数も足りていません。正規職員として配置し、人員を増やすべきだと提案しました。



◆原発事故対策の充実を！

福岡市は玄海原発から37km～60kmに位置します。福岡市民だけでなく、近隣から通勤・通学している方や観光客なども含めて、安全と健康を守る責任があります。すでに原発事故を想定した避難訓練の実施や、放射能被害を防ぐための安定ヨウ素剤(40万人分強)の備蓄をしてはいますが、安定ヨウ素剤の備蓄数の増加や事前配布を含めて、原発事故に対する対策の充実と、原発に頼らない持続可能な社会への転換を訴えました。